

札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課 様

子育て家庭や子どもとのふれあい体
験等を通じた人口減少対策に資する
調査・研究業務 分析報告

実施報告書

2026年3月31日

株式会社SAKURA

1. 業務名

子育て家庭や子どもとのふれあい体験等を通じた人口減少対策に資する調査・研究業務

2. 履行期間

令和7年6月4日～令和8年3月31日

3. 目的

本業務では、札幌市の特に若い世代における子ども・子育てに対するイメージについて、子育て家庭や子どもとのふれあい体験等を通じたマインドの変化等を調査・研究し、その結果を年代や属性(兄弟の有無や子どもと接する機会の頻度等)ごとに分析するものである。

4. 業務内容

子育て家庭や子どもとのふれあい体験

・対象者 市内在住の大学生、高校生、中学生、小学生を対象とする。

アンケート調査の実施及び分析

5. 周知方法

各学校及び児童会館へチラシ配架・周知依頼

● アンケート内容

参加者アンケート

事前アンケート(参加者・小学生)

0. あなたについて

- 0-1. 年齢: _____ 歳
- 0-2. お住まい: _____
- 0-3. きょうだいはいいますか?・何人・何番目
 なし あり(____人・____番目)
- 0-4. これまでの乳幼児とのふれあい体験に参加したことはありますか?
 なし あり

1. 本日の体験について

- 1-1. 本日の体験に参加しようと思ったきっかけは?
 おもしろそうだから
 友達などに誘われたから
 勉強のため
 親に言われたから
 その他(_____)
- 1-2. 今日の体験で楽しみなことは何ですか?

- あまり手伝っていない
- 手伝っていない

- 3-5. 近所の人の育児を手伝っていますか。
 手伝っている
 とときき手伝っている
 あまり手伝っていない
 手伝っていない

4. その他

- 4-1. お母さんたちは赤ちゃんや小さい子を大切にしていると思いますか?
 思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない
- 4-2. お父さんたちは赤ちゃんや小さい子を大切にしていると思いますか?
 思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない
- 4-3. 大人たちは赤ちゃんや小さい子を大切にしていると思いますか?
 思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない
- 4-4. 私は自分の家族のことが好きですか。
 好き どちらかといえば好き どちらかといえば嫌い 嫌い
- 4-5. 私は家族に大切にされていると思いますか?
 思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない
- 4-6. いのちは大切なものだと思いますか?
 思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない
- 4-7. 私を産んでくれたお父さん、お母さんをありがたと思いますか?
 思う どちらかといえば思う どちらかといえば思わない 思わない
- 4-8. きょうだいや近所の子どもなど、普段から赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会はありますか。
 よくある ととききある あまりない まったくない

2. 子どもへのイメージについて

- 2-1. 赤ちゃんや小さい子どもに対して、どのようなイメージですか。(複数回答可)
 かわいい 苦手 静か うるさい 癒される わずらわしい
 やわらかい わがまま おとなしい さわがしい
 楽しい つまらない 弱い たくましい 汚い きれい
 かんたん むずかしい
- 2-2. 赤ちゃんや小さい子どもが好きですか。
 好き どちらかといえば好き どちらかといえば嫌い 嫌い
- 2-3. 赤ちゃんや小さい子どもに関心はありますか。
 ある どちらかといえばある どちらかといえばない ない

3. 子育てへのイメージ

- 3-1. 子育てにどのようなイメージですか。(複数回答可)
 幸せ うれしい 面倒だ 楽しい 大変だ
 やりがいがある 不安だ 心が癒される いらいらする
 自分の成長になる 汚い お金がかかる 自分の時間がなくなる
- 3-2. 将来、子どもは何人くらいほしいと思いますか。
 1人 2人 3人 4人以上 子どもはほしいと思わない
- 3-3. 子育てをしてみたいと思いますか。
 思う
 どちらかといえば思う
 どちらかといえば思わない
 思わない
- 3-4. きょうだいや親せきの育児を手伝っていますか。
 手伝っている
 とときき手伝っている

- 4-9. 赤ちゃんを抱っこすることに、どの程度自信がありますか。
 とてもある
 どちらかといえばある
 どちらかといえばない
 まったくない

- 4-10. 赤ちゃんをあやしたり笑いかけることに、どの程度自信がありますか。
 とてもある
 どちらかといえばある
 どちらかといえばない
 まったくない

●アンケート内容

参加者アンケート

体験後アンケート(参加者・小学生)

0. あなたについて

- 0-1. 年齢: _____ 歳
- 0-2. お住まい: _____
- 0-3. きょうだいはいいますか・何人・何番目
□ なし □ あり(____人・____番目)
- 0-4. これまでの乳幼児とのふれあい体験に参加したことはありますか
□ なし □ あり

1. 本日の体験について

- 1-1. 本日の体験はどうでしたか？
- とても楽しかった
 - 楽しかった
 - 普通
 - あまり楽しなかった
 - 楽しなかった
- 1-2. 印象に残った内容があれば教えてください。
- _____
- _____

- 3-4. きょうだいや親せきの育児を手伝おうと思いますか。
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 3-5. 近所の人の育児を手伝おうという気持ちは強くなりましたか。
- なった
 - どちらかといえばなった
 - どちらかといえばなっていない
 - なっていない
- 3-6. 子育ての楽しさや大変さについて、以前よりよくわかるようになりましたか。
- わかるようになった
 - どちらかといえばわかるようになった
 - どちらかといえばわからない
 - まったくわからない

4. その他

- 4-1. お母さんたちは赤ちゃんや小さい子を大切にしていると思いますか？
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 4-2. お父さんたちは赤ちゃんや小さい子を大切にしていると思いますか？
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 4-3. 大人たちは赤ちゃんや小さい子を大切にしていると思いますか？
- 思う
 - どちらかといえば思う

2. 子どもへのイメージについて

- 2-1. 赤ちゃんや小さい子どもに対して、どのようなイメージを抱くようになりましたか。(複数回答可)
- かわいい □ 苦手 □ 静か □ うるさい □ 癒される □ わずらわしい
 - やわらかい □ わがまま □ おとなしい □ さわがしい
 - 楽しい □ つまらない □ 弱い □ たくましい □ 汚い □ きれい
 - かんたん □ むずかしい
- 2-2. 赤ちゃんや小さい子どもがすきですか。
- 好き □ どちらかといえば好き □ どちらかといえば嫌い □ 嫌い
- 2-3. 体験前と比べて、赤ちゃんや小さい子どもへの関心は強くなりましたか。
- なった
 - どちらかといえばなった
 - どちらかといえばなっていない
 - なっていない

3. 子育てへのイメージ

- 3-1. 子育てにどのようなイメージを抱くようになりましたか。(複数回答可)
- 幸せ □ うれしい □ 面倒だ □ 楽しい □ 大変だ □ やりがいがある
 - 不安だ □ 心が癒される □ いらいらする □ 自分の成長になる
 - 汚い □ お金がかかる □ 自分の時間がなくなる
- 3-2. 将来、子どもは何人くらいほしいと思いますか。
- 1人 □ 2人 □ 3人 □ 4人以上
 - 子どもはほしいと思わない
- 3-3. 子育てをしてみたいと思いますか。
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない

- どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 4-4. 私は自分の家族のことがすきですか。
- 好き
 - どちらかといえば好き
 - どちらかといえば嫌い
 - 嫌い
- 4-5. 私は家族に大切にされていると思いますか？
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 4-6. いのちは大切なものだと思いますか？
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 4-7. 私を産んでくれたお父さん、お母さんをありがたいと思いますか？
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 4-8. ふれあい体験に参加したことで、きょうだいや近所の子どもなど、身近な赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会を持ちたいと思いますか。
- 思う
 - どちらかといえば思う
 - どちらかといえば思わない
 - 思わない
- 4-9. 赤ちゃんを抱っこすることに自信がついたと思いますか。
- 思う
 - どちらかといえば思う

● アンケート内容

乳幼児親子 アンケート

事前アンケート

0. あなたについて

- 0-1. 年齢: _____ 歳
- 0-2. お住まい(市町村): _____
- 0-3. きょうだいの有無
 なし あり(____人・____番目)
- 0-4. 子どもの人数: ____人
- 0-5. 乳幼児とのふれあい体験に参加したことはありますか
 ある ない

1. 本日の体験について

- 1-1. 本日の体験に参加しようと思ったきっかけは？(複数回答可)
- 子どもよい体験をさせたかった
 - 社会性を育てたいと思った
 - 育児の参考にならと思った
 - 小中学生のために何かしたいと思った
 - 学校や友人のすすめ
 - その他(_____)
- 1-2. 本日の体験に期待することは何ですか？(自由記述)

- 1-3. お子さんが子どもとふれあうことについてどう思いますか？
- よい経験になる 戸惑うかもしれない
 - 楽しそう 疲れそう
 - その他(_____)

2. 子どもへのイメージ

- 2-1. 小学生や中学生に対してどのようなイメージを持っていますか？(複数回答可)
- かわいい 苦手 静か うるさい 癒される
 - わがまま おとなしい さわがしい 楽しい
 - 不愉快 弱弱しい たくましい 無力
 - 能力がある 汚い きれいな 単純 複雑 こわい
- 2-2. 小学生や中学生は好きですか？
- 好き どちらかといえば好き
 - どちらかといえば嫌い 嫌い

3. 子育てへのイメージ

- 3-1. 子育てにどんなイメージを持っていますか？(複数回答可)
- 幸せ うれしい 面倒だ 楽しい 大変だ
 - やりがいがある 不安だ 心が癒される いらいらする
 - 自分の成長になる 忍耐力がいる 汚い
 - お金がかかる 自分の時間がなくなる
- 3-2. 子育てを支えてくれる人は誰ですか？(複数回答可)
- 配偶者 パートナー 親 祖父母
 - 親戚 友人 近所の人 知人 その他(_____)
- 3-3. 将来、子どもはあと何人くらい欲しいと思いますか？
- 1人 2人 3人 4人以上 子どもは欲しいと思わない

4. その他

- 4-1. 「子育てサロン」(赤ちゃんや小さい子どもの保護者同士が集える場)が札幌市にあることを知っていますか？
- 知っている 知らない すでに利用している
- ご意見・ご感想(自由記述)

本日はよろしく願いたします。

●アンケート内容

乳幼児親子 アンケート

アンケート(体験後)

0. あなたについて

- 0-1. 年齢: _____ 歳
- 0-2. お住まい(市町村): _____
- 0-3. きょうだいの有無
 なし あり(____人、____番目)
- 0-4. 子どもの人数: _____人
- 0-5. 乳幼児とのふれあい体験に参加したことはありますか
 ある ない

1. 本日の体験について

- 1-1. 本日の体験はどうでしたか？
- よい経験になった
 - おおむねよい経験になった
 - 普通
 - あまりよい経験ではなかった
 - よい経験ではなかった
- 1-2. 印象に残った内容があれば教えてください。(自由記述)

1-3. お子さんが子どもとふれあうことについて、どのように感じましたか？

- 良い経験になった
- 少し戸惑っていた
- 楽しそうだった
- 疲れていた
- その他(_____)

2. 子どもへのイメージについて

2-1. 小学生や中学生の子どもに対して、どのようなイメージを抱くようになりましたか。(複数回答可)

- かわいい 苦手 静か うるさい 癒される
- わがまま おとなしい さわがしい 楽しい
- 不愉快 脆弱しい たくましい 無力
- 能力がある 汚い きれいな 単純 複雑 こわい

2-2. 小学生や中学生の子どもが好きですか。

- 好き
- どちらかといえば好き
- どちらかといえば嫌い
- 嫌い

3. 子育てへのイメージ

3-1. 将来、子どもはあと何人くらいほしいと思いますか。

- 1人 2人 3人 4人以上
- 子どもはほしいと思わない

4. その他

4-1. 今日のふれあい体験で感じたことを家族や友達等に話してみたいと思いますか。

- 思う
- 思わない

4-2. 子どもたちが子育て世帯への配慮や思いやりの気持ちを学んだり、将来の結婚・出産・子育てを自分事として考えるため、ふれあい体験は有意義な取組だと思えますか。

- 思う
- まあ思う
- あまり思わない
- 思わない
- わからない

4-3. このようなふれあい体験に参加する機会は1度きりではなく、子どもたちの成長に応じて複数回必要だと思えますか。

- 思う
- どちらかといえば思う
- どちらかといえば思わない
- 思わない

4-4. 今後、「子育てサロン」を利用したいと思えますか。

- 思う
- どちらかといえば思う
- どちらかといえば思わない
- 思わない

4-5. すでに利用している

4-5. ご意見・ご感想など(自由記述)

ご協力いただきありがとうございました。

●小学生・中学生対象

日時：令和7年8月30日(土) 13時～15時

場所：かでの2・7 1階 1階レクリエーション教室

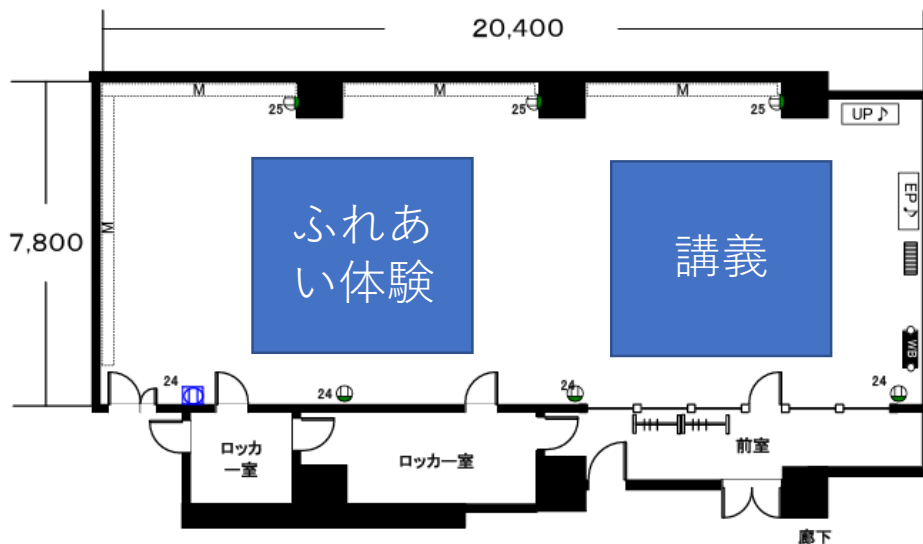
参加者数：小学生9名、中学生1名

乳幼児親子3組

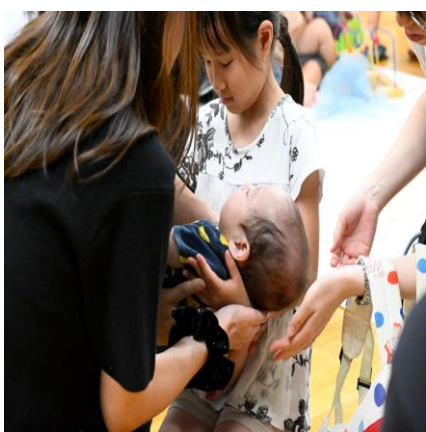
主な属性：7歳-2名、8歳-2名、10歳-2名、11歳-2名、12歳-1名、
13歳-1名

カリキュラム

1. 講和(20分) 手稲やまなみ子ども園 園長 大谷 在我
 - ・乳幼児について(特徴、成長過程、ふれあい体験の重要性等)
 - ・保護者目線のお子様との接し方
 - ・赤ちゃんの接し方、抱っこの仕方
2. 動画(10分)
 - ・乳幼児の抱き方、接し方の注意点等
3. 乳幼児ふれあい体験(20分)
4. アンケート(10分)



●開催写真



●周知チラシ

乳幼児の「小さな手、おおきな笑顔」

ふれあい体験

0～1歳の乳幼児と一緒に遊んだり、保護者から子育てのお話を聞いたり、子育て家庭とふれあってみませんか？

小中学生を対象とした乳幼児とのふれあい体験

生活の中で乳幼児とのふれあい機会が少なくなっていますが、乳幼児の育ちなどにふれることは、思いやりの気持ちや命の大切さを知る機会となるほか、社会全体のウェルビーイング（幸せ）の向上につながります。

2025
日付 **8/30** ±
時間 **13:00-15:00**
場所 かでる2.7 1階レクリエーション研習室
札幌市中央区北2条西7丁目市民活動センタービル

どんなことをするの？

- ・赤ちゃんのことを知ろう！（保育士からのお話）
- ・映像を見ながら、抱き方や寝し方を学ぼう！
- ・乳幼児と実際にふれあってみよう！
- ・子育てのお話を聞いてみよう！

参加者募集

対象者：市内在住の小学生および中学生先着30名
(大人の方と参加いただくか、大人の方の了承を得てからお越しください。)

受付期間 7月24日(木)～8月22日(金)
受付方法 右記の二次元バーコードよりお申込みください
<https://docs.google.com/forms/d/1Q1kxM89F5BqC114emh4gpn1g070CCAN4kC4d/edit> 申込みフォーム

主催：札幌市まちづくり政策局政策企画部未来創生担当課
問い合わせ先：株式会社SAKURA
☎011-600-0195(平日10時～17時)



●動画



ゲップはなぜ必要？

あか じぶん 赤ちゃんは自分でうまく空気を出せない

抱っこして背中をトントンしたり、軽くさすってあげることで、飲み込んだ空気を外に出しやすくなります。

よこた 横抱きのポイント

- 首とおしりも支える手の位置
- 背中を安定させて胸の前で優しくホールド
- ひじや腕でしっかり支える



●小学生・中学生対象

日時：令和7年12月6日(土) 10時～12時

場所：中央区民センター 娯楽室

※インフルエンザにより中止

●周知チラシ

乳幼児との「小さな手、おおきな笑顔」

ふれあい体験

0～1歳の乳幼児と一緒に遊んだり、保護者から子育てのお話を聞いたり、子育て家庭や乳幼児とふれあってみませんか？

小中学生を対象とした乳幼児とのふれあい体験

生活の中で乳幼児とふれあう機会が少なくなっていますが、乳幼児の育ちなどにふれることは、思いやりの気持ちや命の大切さを知る機会となるほか、社会全体のウェルビーイング（幸せ）の向上につながります。

2025
日付 **12/6(土)**
時間 **10:00-12:00**
場所 札幌市中央区民センター 娯楽室
札幌市中央区南3条西1丁目

どんなことをするの？

- ・赤ちゃんのことを知ろう！（保育士からのお話）
- ・ふれあい遊び（いないいないばぁなど）
- ・子育ての一日を知ろう！
- ・赤ちゃんを連れて人が困っていたらできることを学ぼう！

参加者募集

対象者：市内在住の小学生および中学生先着30名
(大人の方と参加いただくか、大人の方の了承を得てからお越しください。)

応募締切 2025年12月5日(金)

受付方法 右記の二次元バーコードよりお申込みください
<https://forms.gle/6ZHyvLW10DohQ89>

主催：札幌市まちづくり政策局政策企画部未来創生担当課
問い合わせ先：株式会社 SAKURA
☎011-600-0195(平日 10時～17時)

申込フォーム

SAPPORO

● 高校生・大学生対象

日時：令和7年12月13日(土) 10時～12時

場所：札幌市生涯学習センター ちえりあ 2階 中研修室2

参加者数： 高校生14名、大学生3名

乳幼児親子3組

主な属性：15歳-1名、16歳-2名、17歳-11名、19歳-1名、
20歳-2名

カリキュラム

1. 乳幼児について(15分)

北翔大学 伏見先生

- ・乳幼児の特徴、成長
- ・胎児のときの記憶について
- ・はじめの100ヶ月の育ちビジョン
- ・遊び方

(わらべ歌、おもちゃでの遊び)

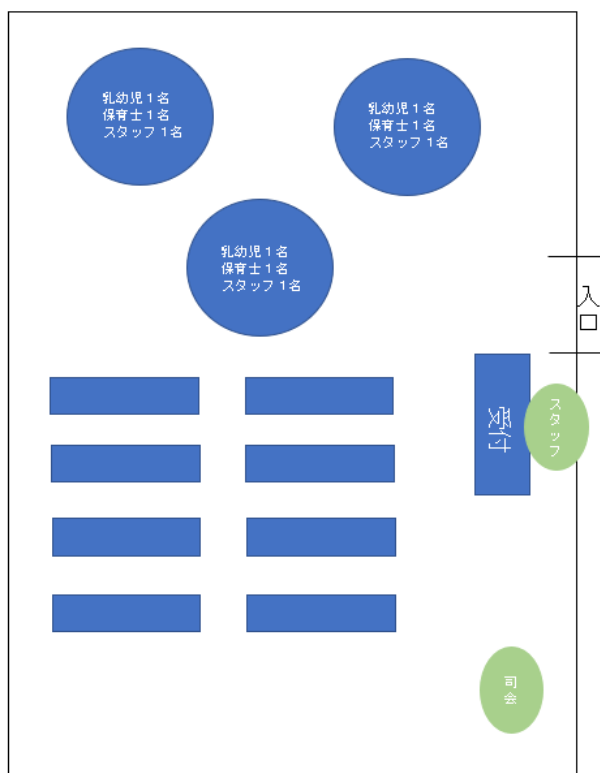
2. 動画(5分)

3. 乳幼児の抱き方、接し方の注意点(5分) 保育士

4. 乳幼児ふれあい体験(45分) ※ダミー人形も使用する。

(乳幼児との遊び→乳幼児の抱っこ)

ヨン (50分)



●周知チラシ



乳幼児の「小さな手、おおきな笑顔」

ふれあい体験

0～1歳の乳幼児と一緒に遊んだり、保護者から子育てのお話を聞いたり、子育て家庭や乳幼児とふれあってみませんか？

高校生、大学生を対象とした乳幼児とのふれあい体験
 生活の中で乳幼児とふれあう機会が少なくなっていますが、乳幼児の育ちなどにふれることは、思いやりの気持ちや命の大切さを知る機会となるほか、社会全体のウェルビーイング（幸せ）の向上につながります。

2025.12.13 土
 10:00 - 12:00
 場所：札幌市生涯学習センターちえりあ
 3F 研修室5・6
 札幌市中央区宮の沢1条1丁目1-10

どんなことをするの？

- ・赤ちゃんのことを知ろう！（保育士からのお話）
- ・ふれあい遊び（いないいないばあなど）
- ・子育ての一日を知ろう！

参加者募集

対象者：市内在住の高校生および大学生先着30名
 応募締切 2025年12月12日（金）
 受付方法 右記の二次元バーコードよりお申込みください

申込は
 コチラ

<https://forms.gle/eZhiyVtLWT1oBdHG89>

主催：札幌市まちづくり政策局政策企画部未来創生担当課
 問い合わせ先：株式会社 SAKURA
 ☎ 011-600-0195(平日 10時～17時)



●開催写真



●小学生・中学生対象

日時：令和8年2月1日(日) 10時～11時30分

場所：かでの2・7 1階レクリエーション教室

参加者数：小学生6名、中学生1名

乳幼児親子5組

主な属性：7歳-1名、9歳-3名、12歳-2名、13歳-1名

カリキュラム

1. 乳幼児について(15分)

北翔大学 伏見先生

- ・乳幼児の特徴、成長
- ・胎児のときの記憶について
- ・はじめの100ヶ月の育ちビジョン
- ・遊び方

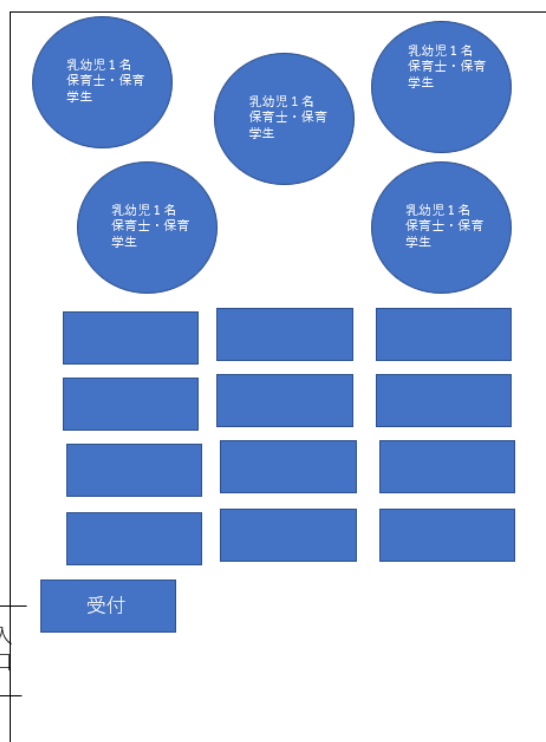
(わらべ歌、絵本やスカーフなどを使用したスキップ遊び)

2. 乳幼児ふれあい体験(40分)

乳幼児の特徴、抱き方、接し方の注意点
(乳幼児との遊び→乳幼児の抱っこ)

3. グループディスカッション(30分)

4. アンケート(5分)



●開催写真



● アンケート結果および分析

小学生・中学生対象

日時：令和7年8月30日(土)

■ 参加者

参加者 子育てイメージ						
選択肢	事前件数	事前構成比	事後件数	事後構成比	増減(件)	増減(ppt)
楽しい	7	70%	6	60%	-1	-10%
幸せ	6	60%	7	70%	1	10%
うれしい	5	50%	3	30%	-2	-20%
大変だ	5	50%	5	50%	0	0%
心が癒される	3	30%	5	50%	2	20%
いらいらする	2	20%	0	0%	-2	-20%
忍耐力がいる	2	20%	1	10%	-1	-10%
やりがいがある	2	20%	1	10%	-1	-10%
面倒だ	1	10%	0	0%	-1	-10%
お金がかかる	1	10%	1	10%	0	0%
自分の時間がなくなる	1	10%	0	0%	-1	-10%
自分の成長になる	0	0%	1	10%	1	10%
回答者数	10		10			

参加者 子育て家庭をサポートしたい						
選択肢	事前件数	事前構成比	事後件数	事後構成比	増減(件)	増減(ppt)
思う	6	60%	8	80%	2	20%
まあ思う	2	20%	1	10%	-1	-10%
思わない	1	10%	0	0%	-1	-10%
あまり思わない	1	10%	1	10%	0	0%
回答者数	10		10			

参加者 将来ほしい子どもの人数						
選択肢	事前件数	事前構成比	事後件数	事後構成比	増減(件)	増減(ppt)
1人	5	50%	2	29%	-3	-21%
子どもはほしいと思わない	4	40%	2	29%	-2	-11%
4人以上	1	10%	0	0%	-1	-10%
2人	0	0%	3	43%	3	43%
回答者数	10		7			

■乳幼児親子

乳幼児 子どもとふれあうことの印象						
選択肢	事前件数	事前構成比	事後件数	事後構成比	増減(件)	増減(ppt)
よい経験	3	100%	3	100%	0	0%
楽しそう	1	33%	0	0%	-1	-33%
回答者数	3		3			

乳幼児 小中学生へのイメージ						
選択肢	事前件数	事前構成比	事後件数	事後構成比	増減(件)	増減(ppt)
かわいい	2	67%	2	67%	0	0%
癒される	2	67%	2	67%	0	0%
楽しい	1	33%	1	33%	0	0%
回答者数	3		3			

乳幼児 小中学生は好きか						
選択肢	事前件数	事前構成比	事後件数	事後構成比	増減(件)	増減(ppt)
好き	2	67%	2	67%	0	0%
どちらかといえば好き	1	33%	1	33%	0	0%
回答者数	3		3			

■乳幼児親子

乳幼児 将来ほしい子どもの人数						
選択肢	事前件数	事前構成比	事後件数	事後構成比	増減(件)	増減(ppt)
子どもはほしいと思わない	2	67%	1	33%	-1	-33%
2人	1	33%	1	33%	0	0%
1人	0	0%	1	33%	1	33%
回答者数	3		3			

●アンケート結果および分析

小学生・中学生対象

日時：令和7年8月30日(土)

■変化

1. 子育てに対する印象の変化

参加者全体では、体験後に子育てをより前向きに捉える傾向がみられました。

「幸せ」60% → 70%(+10pt)

「心が癒される」30% → 50%(+20pt)

「自分の成長になる」0% → 10%(+10pt)

一方で、負担感や否定的な印象は減少しています。

「いらいらする」20% → 0%(-20pt)

「面倒だ」10% → 0%(-10pt)

「自分の時間がなくなる」10% → 0%(-10pt)

2. 子育て家庭を支えたい意識の変化

「子育て家庭をサポートしたい」と思う60% → 80%(+20pt)

支援意識が明確に高まっており、体験を通じて当事者や家庭への理解が深まったことがうかがえます。

3. 将来子どもをもちたい意識の変化

参加者全体では、

「子どもはほしいと思わない」40% → 29%(-11pt)

「2人ほしい」0% → 43%(+43pt)

となっており、将来の子どもの人数に関する回答も前向きな方向へ変化しています。ただし、この設問は事後回答者数が10人→7人に減っているため、参考値としてみる必要があります。

4. 乳幼児と接した少人数群の変化

乳幼児と接した3名では、

「子どもとふれあうことはよい経験」100%を維持

「子どもはほしいと思わない」67% → 33%

「1人ほしい」0% → 33%

という変化が見られ、乳幼児との直接的なふれあいが将来像に一定の影響を与えた可能性があります。

■分析

今回の結果から、乳幼児や子育て家庭とのふれあい体験は、参加者の子育て観をより肯定的に変化させたと考えられます。

特に重要なのは、単に「楽しい」という表面的な印象ではなく、「幸せ」「心が癒される」「支えたい」といった、共感・理解・支援意識に関わる項目が上昇している点です。

これは、体験を通じて子どもや保護者を身近な存在として捉え直した結果と考えられます。また、「いらいらする」「面倒だ」などの否定的項目が減少していることから、参加前に持っていた漠然とした負担イメージが、実際のふれあいによってやわらいだ可能性があります。

一方で、「大変だ」は50%で変化しておらず、子育ての大変さ自体が否定されたわけではありません。つまり参加者は、子育ては大変でも、それ以上に幸せや癒し、支える価値のあるものとして理解を深めたと読み取れます。

この点は、単なる好感度向上ではなく、現実を踏まえたうえでの前向きな認識変化として評価できます。

● アンケート結果および分析

高校生・大学生対象

日時：令和7年12月13日(土)

■ 参加者

赤ちゃんや小さい子どもへのイメージ				
選択肢	事前	事後	増減	備考
かわいい 癒される やわらかい 楽しい	5	6	1	増加
かわいい 癒される やわらかい 楽しい きれい	1	1	0	変化なし
かわいい 癒される やわらかい 楽しい 複雑	1	1	0	変化なし
かわいい 癒される 楽しい	1	1	0	変化なし
かわいい	0	1	1	増加
かわいい やわらかい	1	0	-1	減少
かわいい やわらかい さわがしい 楽しい	1	0	-1	減少
かわいい 癒される やわらかい	1	0	-1	減少
かわいい 癒される やわらかい おとなしい 楽しい	0	1	1	増加
かわいい 癒される やわらかい おとなしい 楽しい 単純	1	0	-1	減少
かわいい 癒される やわらかい さわがしい 楽しい	0	1	1	増加
かわいい 癒される やわらかい 楽しい きれい 複雑	0	1	1	増加
かわいい 癒される やわらかい 楽しい たくましい 単純	0	1	1	増加
かわいい 癒される やわらかい 楽しい 単純	0	1	1	増加
かわいい 癒される やわらかい 楽しい 弱弱しい	1	0	-1	減少
かわいい 癒される やわらかい 楽しい 弱弱しい きれい 単純	0	1	1	増加
かわいい 癒される 楽しい きれい	1	0	-1	減少
かわいい 癒される 楽しい たくましい	1	0	-1	減少
かわいい 静か うるさい 癒される わがまま さわがしい 楽しい 単純	1	0	-1	減少
苦手 やわらかい 弱弱しい 複雑	0	1	1	増加
苦手 弱弱しい 複雑	1	0	-1	減少
回答数	17	17		

赤ちゃんや小さい子どもが好きか				
選択肢	事前	事後	増減	備考
好き	16	16	0	変化なし
どちらかといえば嫌い	1	1	0	変化なし
回答数	17	17		

赤ちゃんや小さい子どもへの関心				
選択肢	事前	事後	増減	備考
ある	16	0	-16	減少
なった	0	15	15	増加
どちらかといえばなった	0	2	2	増加
どちらかといえばある	1	0	-1	減少
回答数	17	17		

子育てのイメージ				
選択肢	事前	事後	増減	備考
いろいろな 忍耐力がいる	1	1	0	変化なし
幸せ うれしい 楽しい やりがいがある 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる	0	2	2	増加
幸せ うれしい 楽しい 大変だ やりがいがある 心が癒される 自分の成長になる	0	2	2	増加
幸せ うれしい 楽しい 大変だ やりがいがある 心が癒される 自分の成長になる 忍耐力がいる お金がかかる	0	2	2	増加
うれしい 楽しい やりがいがある 心が癒される 自分の成長になる 自分の時間がなくなる	0	1	1	増加
うれしい 楽しい 大変だ やりがいがある 心が癒される	1	0	-1	減少
幸せ うれしい 大変だ やりがいがある 不安だ 自分の成長になる 忍耐力がいる お金がかかる 自分の時間がなくなる	0	1	1	増加
幸せ うれしい 大変だ 不安だ 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる 自分の時間がなくなる	1	0	-1	減少
幸せ うれしい 大変だ 心が癒される 自分の成長になる 忍耐力がいる お金がかかる 自分の時間がなくなる	1	0	-1	減少
幸せ うれしい 楽しい 大変だ やりがいがある 不安だ 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる	1	0	-1	減少
幸せ うれしい 楽しい 大変だ やりがいがある 不安だ 心が癒される 自分の成長になる 忍耐力がいる お金がかかる 自分の時間がなくなる	0	1	1	増加
幸せ うれしい 楽しい 大変だ やりがいがある 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる 自分の時間がなくなる	0	1	1	増加
幸せ うれしい 楽しい 大変だ 不安だ 自分の成長になる 忍耐力がいる	1	0	-1	減少
幸せ うれしい 楽しい 大変だ 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる 自分の時間がなくなる	1	0	-1	減少
幸せ うれしい 楽しい 大変だ 忍耐力がいる	1	0	-1	減少
幸せ 不安だ 自分の成長になる	1	0	-1	減少
幸せ 大変だ やりがいがある 不安だ 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる	0	1	1	増加
幸せ 大変だ やりがいがある 不安だ 心が癒される 自分の成長になる 忍耐力がいる お金がかかる 自分の時間がなくなる	1	0	-1	減少
幸せ 束縛される うれしい 大変だ やりがいがある 不安だ 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる 自分の時間がなくなる	1	0	-1	減少
幸せ 楽しい やりがいがある 不安だ 自分の成長になる 忍耐力がいる	0	1	1	増加
幸せ 楽しい 大変だ やりがいがある 不安だ 心が癒される 自分の成長になる	1	0	-1	減少
幸せ 楽しい 大変だ やりがいがある 不安だ 心が癒される 自分の成長になる お金がかかる	0	1	1	増加
幸せ 楽しい 大変だ やりがいがある 不安だ 自分の成長になる 忍耐力がいる お金がかかる	1	0	-1	減少
幸せ 楽しい 大変だ 心が癒される	1	0	-1	減少
幸せ 楽しい 大変だ 心が癒される お金がかかる	0	1	1	増加
幸せ 面倒だ 楽しい やりがいがある 自分の成長になる 忍耐力がいる お金がかかる 自分の時間がなくなる	1	0	-1	減少
回答数	16	16		

将来ほしい子どもの人数				
選択肢	事前	事後	増減	備考
2人	9	9	0	変化なし
3人	5	5	0	変化なし
4人以上	1	1	0	変化なし
子どもはほしいと思わない	1	1	0	変化なし
回答数	16	16		

子育てをしてみたいか				
選択肢	事前	事後	増減	備考
思う	14	15	1	増加
思わない	1	1	0	変化なし
どちらかといえば思う	1	0	-1	減少
どちらかといえば思わない	1	0	-1	減少
回答数	17	16		

結婚や子育てを具体的にイメージできるか／考えるきっかけ				
選択肢	事前	事後	増減	備考
なった	0	15	15	増加
どちらかといえばできない	7	0	-7	減少
できる	4	0	-4	減少
どちらかといえばできる	4	0	-4	減少
できない	1	0	-1	減少
どちらかといえばなった	0	1	1	増加
回答数	16	16		

■乳幼児親子

お子さんが子どもとふれあうことについて				
選択肢	事前	事後	増減	備考
よい経験になる	3	0	-3	減少
よい経験になった	0	2	2	増加
楽しそうだった	0	1	1	増加
回答数	3	3		

高校生・大学生へのイメージ				
選択肢	事前	事後	増減	備考
楽しい	0	2	2	増加
頼りになる	1	1	0	変化なし
さわがしい	1	0	-1	減少
優しい	1	0	-1	減少
回答数	3	3		

高校生・大学生と交流したい気持ち				
選択肢	事前	事後	増減	備考
なった	0	3	3	増加
思う	3	0	-3	減少
回答数	3	3		

● グループディスカッションまとめ

全体を通してみると、この体験は単なる「赤ちゃんがかわいかった」という感想にとどまらず、**子育ての現実・責任・支え合いの必要性まで含めて理解が深まった**ことが読み取れます。特に、参加前は「大変そう」という漠然とした印象だったものが、体験後には「大変だけれど、喜びや幸せも大きい」「一人ではなく周囲の支えが必要」という、より具体的で現実的な認識へ変化しています。

① 体験の振り返りの傾向

多くの記述で、抱っこやあやし方の難しさ、泣いたときの対応への戸惑い、お母さんの存在の大きさが挙げられていました。一方で、目線を合わせる、揺らす、声をかけるなどの関わりで反応が変わることへの気づきや、赤ちゃん一人ひとりに個性があることへの発見も多く、参加者が「実際に関わることでしか分からない学び」を得ていることが分かります。単なる楽しい体験ではなく、観察し、感じ、考える体験になっていた点が大きな成果です。

② 子ども・子育てに対するイメージの変化

記述の中心には、子育てへの見方の変化があります。参加前は「大変」「怖い」「責任が重い」という印象が強かった一方で、体験後は「大変だけれど楽しい」「かわいさや幸せがそれを上回る」「保護者の笑顔が印象的だった」という前向きな受け止めが増えていきます。また、泣く理由を見極める難しさ、首がすわらない時期の危うさ、成長に応じた関わりの違いなど、子育ての繊細さへの理解も深まっています。つまり、理想化ではなく、**現実を知ったうえで前向きさが高まった**点に意味があります。

③ 未来や地域への活かし方

地域や社会への提案としては、子育て家庭が過ごしやすい環境整備を求める声が多く見られました。たとえば、職場と保育の両立環境、学校での乳幼児とのふれあい機会、子連れで移動しやすい交通環境、困っている保護者への声かけ、子育てボランティアの充実などです。これは、体験を通して参加者が子育てを「家庭の中だけの課題」ではなく、**地域や社会全体で支えるもの**として捉え始めていることを示しています。単なる感想に終わらず、社会参加意識や共助意識につながっている点が重要です。

④ 将来の自分についての意識

将来の結婚や子育てについては、「自分も子育てしたい」「子どもがほしい」という前向きな記述が複数ある一方で、「責任の重さを感じた」「一人では無理」「もっと学ぶ機会が必要」といった慎重な声も多く見られました。これは、体験によって子育てへの希望が高まると同時に、安易に理想化せず、必要な準備や支援を考えるようになったことを示しています。また、保育士や助産師を目指す意識の強化につながった記述もあり、将来の進路意識にも好影響を与えていると考えられます。

総合的な分析

今回の記述からは、乳幼児とのふれあい体験が、参加者に対して次の3つの効果を持ったと整理できます。

1つ目は、**子どもへの親しみや好意の形成**です。

2つ目は、**子育てを現実的に理解しつつ肯定的に受け止める意識の醸成**です。

3つ目は、**地域や将来の自分の役割まで視野を広げる契機**になっていることです。

つまり本体験は、単なる交流活動ではなく、子ども・家庭・地域社会への理解を深め、将来の家庭観や職業観、さらには子どもを持つことへの前向きな意識の形成にもつながる教育的意義の高い取組と評価できます。

●アンケート結果および分析

高校生・大学生対象

日時：令和7年12月13日(土)

■変化

1. 参加者全体の印象変化

体験後、参加者の赤ちゃんや小さい子どもに対する関心は明確に高まりました。

「関心がある」とする回答は、事前の「ある」16件・「どちらかといえばある」1件から、事後には「なった」15件・「どちらかといえばなった」2件へ移行しており、体験を通じて関心喚起が強く生じたことがうかがえます。

また、子育てに対するイメージも、否定一辺倒ではなく、肯定的要素と現実的理解の両方を含む方向へ変化しています。自由選択式回答の組合せをみると、事後は「幸せ」「うれしい」「楽しい」「心が癒される」「自分の成長になる」などの肯定的要素を含む回答が増加しており、特に「心が癒される」「自分の成長になる」を含む回答の増加が目立ちます。

一方で、「面倒だ」「いらいらする」などの強い否定的印象を含む回答は縮小しています。

2. 子育てへの意欲の変化

「子育てをしてみたいか」については、「思う」14人 → 15人「どちらかといえば思う」1人 → 0人「どちらかといえば思わない」1人 → 0人となり、回答はより前向きな選択肢へ集約される傾向がみられました。事後回答者が1名減少している点には留意が必要ですが、全体として子育てを前向きに捉える方向への変化が確認できます。

3. 将来像の具体化

「結婚や子育てを具体的にイメージできるか／考えるきっかけ」では、事前の「できる／できない」といった状態回答から、事後は「なった」15人、「どちらかといえばなった」1人へ変化しています。これは設問表現の違いも影響していますが、少なくとも体験が、結婚や子育てを自分事として考える契機になったことは明確です。

4. 将来ほしい子どもの人数

「将来ほしい子どもの人数」は、2人：9人 → 9人3人：5人 → 5人4人以上：1人 → 1人子どもはほしいと思わない：1人 → 1人であり、大きな変化はみられませんでした。

このことから、今回の体験は、希望子ども数そのものを変えるというより、子育てや乳幼児への印象・関心・具体的イメージを深める効果が中心であったと考えられます。

5. 乳幼児親子側の変化

乳幼児アンケートでは、「お子さんが子どもとふれあうことについて」は、「よい経験になる」から「よい経験になった」「楽しそうだった」へ変化し、高校生・大学生へのイメージは、「楽しい」が増加。「高校生・大学生と交流したい気持ち」は、事後に3人全員が「なった」となっており、乳幼児親子側にとっても、交流体験が肯定的に受け止められたことがわかります。

■分析

今回の結果から、乳幼児や子育て家庭とのふれあい体験は、参加者に対して単なる「子どもはかわいい」という印象強化にとどまらず、子育てをより具体的かつ前向きに捉える契機として機能したと評価できます。

特に重要なのは、事後回答において「幸せ」「楽しい」といった感情面だけでなく、「心が癒される」「自分の成長になる」「やりがいがある」といった、子育ての意味や価値に関わる要素を含む回答が増えている点です。これは、体験を通じて乳幼児や保護者の姿を身近に感じ、子育てを社会的・人格的な営みとして理解する方向へ認識が深まったことを示しています。

一方で、「大変だ」「お金がかかる」「忍耐力がいる」といった現実的負担を含む回答も事後に一定数残っており、参加者が子育ての大変さを見えなくしたわけではありません。むしろ、負担を伴う現実を理解したうえで、それでもなお前向きな価値や意味を見いだす方向へ認識が変化したと解釈できます。

この点は、表面的な好感度向上ではなく、実感を伴った理解深化として評価できる重要なポイントです。また、「結婚や子育てを具体的にイメージできるか／考えるきっかけ」で大きな変化がみられたことから、今回の体験は将来のライフデザイン形成にも一定の効果を持った可能性があります。

希望子ども数そのものには変化がなかった一方で、子育てへの関心や実感、当事者意識が高まっていることから、短時間の体験でも意識形成に与える教育的効果は大きいと考えられます。

さらに、乳幼児親子側でも、高校生・大学生との交流を肯定的に受け止める結果が得られており、本事業は参加者側だけでなく、受け入れ側にも好意的な相互作用を生んでいることが確認されました。したがって、本取組は、若年層の子育て理解促進と、子育て家庭との相互理解の双方に資する有効な交流機会であったと整理できます。

今回の交流・体験を通じて、参加者の子どもや子育てに対する印象が前向きに変化したことは、単なる理解促進にとどまらず、将来的に「自分も子どもを持ちたい」という意識の醸成につながる可能性があると考えられます。

子どもと接する中で、「楽しい」「幸せ」「癒される」といった肯定的な感情が高まったことは、子育てをより身近で前向きなものとして捉える契機になったといえます。

こうした経験の積み重ねは、結婚・出産・子育てに対する心理的ハードルを下げ、将来のライフプランを考える上でも前向きな意識形成に寄与することが期待されます。

●小学生・中学生対象

日時：令和8年2月1日(日)

参加者 前後比較				
区分	選択肢	事前	事後	増減
子どもへの好意	好き	0	6	6
	どちらかといえば好き	0	1	1
子どもへの関心	なった	0	5	5
	どちらかといえばなった	0	2	2
子育てイメージ	うれしい	0	5	5
	幸せ	0	4	4
	楽しい	0	4	4
	大変だ	0	3	3
	自分の成長になる	0	1	1
	面倒だ	0	1	1
希望する子どもの人数	2人	0	2	2
	3人	0	2	2
	4人以上	0	1	1
	一人	0	1	1
	子どもはほしいと思わない	0	1	1
子育て意向	思う	0	7	7
身近な育児への関わり意識	思う	0	7	7
地域の育児支援意識	どちらかといえばなった	0	4	4
	なった	0	3	3
母親への認識	思う	0	7	7
父親への認識	思う	0	5	5
	どちらかといえば思う	0	2	2
大人への認識	思う	0	5	5
	どちらかといえば思う	0	2	2
家族への好意	好き	0	5	5
	どちらかといえば好き	0	2	2
家族からの受容感	思う	0	5	5
	どちらかといえば思う	0	2	2
いのちの大切さ認識	思う	0	7	7
親への感謝	思う	0	5	5
	どちらかといえば思う	0	2	2
抱っこへの自信	どちらかといえはない	6	0	-6
	思う	0	5	5
	どちらかといえば思う	0	2	2
	どちらかといえばある	1	0	-1
あやすことへの自信	どちらかといえはない	6	0	-6
	思わない	0	5	5
	思う	0	2	2
	どちらかといえばある	1	0	-1

乳幼児保護者 前後比較				
区分	選択肢	事前	事後	増減
お子さんのふれあいへの評価	よい経験になった	0	5	5
	よい経験になる	2	0	-2
	よい経験になる、成長につながる	1	0	-1
	よい経験になる、楽しそう	1	0	-1
	よい経験になる、楽しそう、成長につながる	1	0	-1
子育てイメージ	幸せ	4	4	0
	うれしい	2	2	0
	大変だ	2	2	0
	忍耐力がいる	2	2	0
	楽しい	2	2	0
	自分の時間がなくなる	1	1	0
子育て家庭への支援意識	思う	1	5	4
	あまり思わない	3	0	-3
	思わない	1	0	-1
希望する子どもの人数	一人	3	3	0
	子どもはほしいと思わない	2	2	0

●小学生・中学生対象

日時：令和8年2月1日(日)

■変化

1. 参加者の変化

参加者では、体験後に子どもへの好意が明確に高まり、「好き」6人、「どちらかといえば好き」1人となっており、参加者全員が肯定的な方向に変化しています。

また、子どもへの関心も「なった」5人、「どちらかといえばなった」2人となっており、全員に関心の向上が見られます。

2. 子育てイメージの変化

子育てのイメージでは、「うれしい」5人、「幸せ」4人、「楽しい」4人と、前向きなイメージが複数形成されています。その一方で、「大変だ」3人、「面倒だ」1人も見られるため、体験を通じて子育てを単純に理想化するのではなく、喜びと大変さの両面を現実的に受け止めたと考えられます。

これは、理解の深化として前向きに評価できます。

3. 将来の子育て・育児

参加への意識「子育て意向」は「思う」7人、「身近な育児への関わり意識」も「思う」7人で、いずれも全員が肯定的回答となっています。さらに、「地域の育児支援意識」も「なった」3人、「どちらかといえばなった」4人で、全員が地域で子育てを支える意識を持つ方向に変化しています。

体験が、単なる感想にとどまらず、将来の行動意識や地域貢献意識の醸成につながっている点は重要です。

4. 家族・大人・命への認識の変化

「母親への認識」は全員が「思う」7人、「父親への認識」「大人への認識」も全員が肯定的回答となっています。加えて、「家族への好意」「家族からの受容感」「いのちの大切さ認識」「親への感謝」も全員が肯定的な方向に変化しており、体験が乳幼児への関心だけでなく、自分を育ててくれた家族や周囲の大人への理解・感謝にまで波及していることが読み取れます。

5. 育児行為への自信の変化

「抱っこへの自信」では、事前に「どちらかといえはない」6人だったものが事後には0人となり、代わって「思う」5人、「どちらかといえば思う」2人となっています。このことから、体験を通じて実際の育児行為への不安が軽減され、自信が形成されたことがわかります。

「あやすことへの自信」についても同様に、「どちらかといえはない」6人が0人となっており、不安の軽減は確認できます。ただし、事後欄に「思わない」5人とあるため、ここは文脈上、集計上の表記揺れや入力確認が必要な可能性があります。

もし「思う」5人の誤記であれば、抱っこと同様に大きな自信向上と整理できます。

6. 乳幼児親子の変化

乳幼児親子では、「お子さんのふれあいへの評価」が事後に「よい経験になった」5人となっており、体験が子どもにとって有意義だったと受け止められています。

事前は「よい経験になる」「成長につながる」「楽しそう」といった期待ベースの回答でしたが、事後には実体験を踏まえて“よい経験になった”という確信的評価に変化している点が特徴です。

7. 保護者の子育て観と支援意識

保護者の「子育てイメージ」は、事前・事後ともに「幸せ」「うれしい」「楽しい」といった肯定的側面と、「大変だ」「忍耐力がいる」「自分の時間がなくなる」といった負担感の両方が維持されており、大きな変化は見られません。

一方で、「子育て家庭への支援意識」は「思う」が1人から5人へ増加し、「あまり思わない」「思わない」は0人となっているため、体験を通じて自分自身の子育てだけでなく、周囲の子育て家庭を支えたいという意識が高まったことがわかります。

■分析

今回の交流を通じて、参加者側には子どもに対する好意や関心の高まりが明確に見られました。事後には「子どもが好き」「どちらかといえば好き」が計7人、「関心を持った」「どちらかといえば持った」も計7人となっており、交流体験が子どもをより身近で肯定的な存在として受け止めるきっかけになったと考えられます。

また、子育てに対する印象も前向きな方向へ広がっていることが特徴です。「うれしい」「幸せ」「楽しい」といった肯定的なイメージが増えている一方で、「大変だ」「面倒だ」といった現実的な側面も挙がっており、交流によって子育てを美化するのではなく、実際の姿を含めて理解が深まったと捉えられます。

これは、表面的な好印象ではなく、より実感を伴った学びが生まれたことを示しています。さらに、交流後には子育てへの参加意識や地域で支える意識も高まっています。「子育てをしたいと思う」「身近な育児に関わりたいと思う」がいずれも7人、「地域の育児支援意識が高まった」も計7人となっており、体験が個人的感情の変化にとどまらず、将来的な行動意識や社会的な役割意識にまでつながっていることがうかがえます。

事前の「よい経験になるだろう」という期待が、事後には「よい経験になった」という実感に変化しており、交流が実際に子どもにとって有意義な機会であったことが確認できます。さらに保護者では、子育て家庭への支援意識の向上も見られました。

「支援したいと思う」が1人から5人へ増加し、否定的回答はなくなっています。このことから、交流は参加者だけでなく保護者側にも、子育てを家庭内の問題として閉じず、社会全体で支えるものとして捉える意識変化をもたらしたといえます。

●総合分析

本業務は、若い世代の子ども・子育てに対するイメージ変化を把握し、人口減少対策に資する示唆を得ることを目的として実施されています。報告書でも、業務名と目的において、若年層のマインド変化を調査・分析する事業であることが明記されています。

実施結果を見ると、ふれあい体験は参加者の子育て観を全体として前向きに変化させています。

小中学生対象では、「幸せ」60%→70%、「心が癒される」30→50%、「自分の成長になる」0%→10%と肯定的項目が上昇し、「いらいらする」20%→0%、「面倒だ」10%→0%、「自分の時間がなくなる」10%→0%と否定的項目が低下しました。また、「子育て家庭をサポートしたい」は60%→80%へ上昇しています。

加えて、将来像の形成にも一定の効果が見られます。小中学生対象では「子どもはほしいと思わない」40%→29%、「2人ほしい」0%→43%という変化が確認され、乳幼児と直接接した少人数群でも「子どもはほしいと思わない」67%→33%、「1人ほしい」0%→33%という変化が見られました。ただし、報告書自体も、これらは事後回答者数の減少があるため参考値として扱うべきとしています。

高校生・大学生対象でも、赤ちゃんや小さい子どもへの関心が高まり、子育てを「自分事」として考える契機になったことが示されています。さらに、令和8年2月1日の小中学生対象回では、「子育て意向」「身近な育児への関わり意識」「地域の育児支援意識」「いのちの大切さ認識」「親への感謝」など、多面的な意識変化が表れており、単なる好感度上昇ではなく、家庭・地域・将来像まで含めた認識形成につながっている点が重要です。

その一方で、「大変だ」という認識は残っており、子育ての現実的負担が消えたわけではありません。つまり本事業の効果は、「子育ては大変ではない」と思わせることではなく、「大変さを理解したうえで、それでも幸せ・価値・支え合う意義を感じる」方向に認識を動かした点にあります。

●人口減少等の観点から分析

人口減少対策の観点で見ると、本事業の成果は出生数そのものを短期で増やす直接施策というより、将来の結婚・出産・子育てに対する心理的ハードルを下げる基盤施策として評価するのが適切です。

報告書でも、希望子ども数そのものは大きく変わらない一方で、子育てへの関心、肯定的イメージ、具体的イメージ形成が進んだと整理されています。

人口減少局面では、若年層が「子育ては自分とは遠いもの」「負担が大きいだけのもの」と捉えること自体が、将来の結婚・出産意向の弱まりにつながります。

この点、本事業は、乳幼児や保護者との接点を通じて、子育てを身近で現実的なものへと変え、将来の家族形成を考える入口をつくる効果を持っています。

また、人口減少対策として重要なのは、出産意欲だけでなく、地域全体で子育てを支える意識の醸成です。報告書では、参加者の「子育て家庭をサポートしたい」という意識が上昇し、さらに「地域の育児支援意識」も伸びています。これは、将来的に子育てしやすい地域環境づくりの土台となる変化であり、人口減少対策における「地域受容性の向上」という意味で非常に重要です。

●札幌市施策について

札幌市では現在、小・中学校の一部に限って実施されていることから、今後は地域ごとに開催するなど、より多くの人に参加できる仕組みを構築することが望まれる。

参加者アンケート等からは

1. 体験機会をもっと増やしたいという声が複数あること
参加者からは、「もっと参加したい」「今後もこのような機会があればぜひ参加したい」「今回のような体験が多くひらかれるのであればよい」といった趣旨の記述が見られます。これは、体験の教育的効果や参加ニーズが一定程度確認できており、実施対象を広げる必要性の根拠になります。
2. 学校以外・地域での実施を想起させる意見が出ていること
自由記述には、「小中高の学校で、幼稚園児と触れ合える授業や実習を行ってほしい」「学生でも幼児のお世話をすることができる空間があれば良い」「地域に専門の部屋があってもよい」「ボランティアとして参加するようなイベントがもっと増えていけばいい」など、学校内に閉じない形で、地域や社会の中に体験機会を広げていく方向性を示す意見が含まれています。
したがって、地域ごとの開催という考え方は、参加者の声と整合しています。
3. 交通・環境面の配慮が必要という意見があること
「交通面を良くすればいい」「地下鉄に子連れ専用車両のようなスペースがあると便利」「赤ちゃんといる人が過ごしやすい場所を増やす」などの意見から、参加や子育て支援の機会は、限られた場所だけでなく、身近な地域でアクセスしやすく設けることが望ましいと考えられます。これは、地域分散型で開催する意義を補強する材料になります。そのため、前回の文案の根拠は、「現在は実施校が限られている」という前提に加え、参加者の記述から、体験機会の拡充ニーズ、地域での実施可能性、アクセスしやすい環境整備の必要性が確認できることにあります。

●札幌市施策について

札幌市では現在、小・中学校の一部に限って実施されていることから、今後は地域ごとに開催するなど、より多くの人に参加できる仕組みを構築することが望まれます。

参加者アンケート等からは

1. 体験機会をもっと増やしたいという声が複数あること
参加者からは、「もっと参加したい」「今後もこのような機会があればぜひ参加したい」「今回のような体験が多くひらかれるのであればよい」といった趣旨の記述が見られます。
これは、体験の教育的効果や参加ニーズが一定程度確認できており、実施対象を広げる必要性の根拠になります。
2. 学校以外・地域での実施を想起させる意見が出ていること
自由記述には、「小中高の学校で、幼稚園児と触れ合える授業や実習を行ってほしい」「学生でも幼児のお世話をすることができる空間があれば良い」「地域に専門の部屋があってもよい」「ボランティアとして参加するようなイベントがもっと増えていけばいい」など、学校内に閉じない形で、地域や社会の中に体験機会を広げていく方向性を示す意見が含まれています。
したがって、地域ごとの開催という考え方は、参加者の声と整合しています。
3. 交通・環境面の配慮が必要という意見があること
「交通面を良くすればいい」「地下鉄に子連れ専用車両のようなスペースがあると便利」「赤ちゃんといる人が過ごしやすい場所を増やす」などの意見から、参加や子育て支援の機会は、限られた場所だけでなく、身近な地域でアクセスしやすく設けることが望ましいと考えられます。
これは、地域分散型で開催する意義を補強する材料になります。そのため、「現在は実施校が限られている」という前提に加え、参加者の記述から、体験機会の拡充ニーズ、地域での実施可能性、アクセスしやすい環境整備の必要性が確認できることにあります。

●今後の施策・提案

1.単発イベントから継続型プログラムへ移行すること

今回の成果は明確ですが、単回参加では効果の定着に限界があります。小学生・中学生・高校生・大学生それぞれの年代に応じ、年1回の体験ではなく、講話、ふれあい、振り返り、再参加を組み合わせた段階的プログラムにすることで、子育て観の定着と将来像の具体化をより強めるべきです。

2.学校教育との接続を強化すること

周知は各学校・児童会館へのチラシ配架で行われていますが、今後は学校行事や総合学習、キャリア教育、家庭科、福祉学習と接続し、授業内または準授業型で実施する方が参加の広がりや継続性を確保しやすいです。人口減少対策としては、より多くの若年層に“家族形成を考える機会”を届けることが重要です。

3.高校生・大学生向けには「将来設計」と接続すること

この年代では、単なる乳幼児との接触だけでなく、結婚、仕事、住まい、子育て支援制度、ライフデザインまで含めた対話型プログラムに発展させるべきです。報告書でも「結婚や子育てを具体的にイメージできるか／考えるきっかけ」が大きく変化しており、ここを施策として伸ばす価値があります。

4.“子育ての大変さ”を隠さず、支援策とセットで見せること

参加者は、子育てを前向きに捉える一方で、大変さも理解しています。このため、今後は「楽しい体験」だけでなく、保護者のリアルな声、家事育児分担、地域支援、行政サービス、相談先などをあわせて提示し、“大変でも支えがあるから子育てできる”というメッセージに発展させるべきです。

5.乳幼児親子側の参加メリットを明確化し、協力家庭を拡大すること

親子側でも交流体験は肯定的に受け止められており、参加者募集の基盤があります。今後は「子どもにとっての社会性」「地域交流」「親の孤立防止」といった参加メリットを整理し、協力家庭を安定的に確保する仕組みを整えるべきです。

6.人口減少対策としての効果検証指標を追加すること

今回は意識変化の把握が中心でしたが、今後は半年後の意識追跡・再参加率・子育て支援活動への参加意向・結婚・出産・子育てに関する具体的イメージの定着度・保護者側の地域参加意欲など、中長期指標を設定すると、人口減少対策としての政策的説得力が高まります。

7.地域全体での“子育てを支える空気づくり”へ展開すること

本事業の本質は、参加者個人の意識変化だけでなく、地域の子育て受容性を高める点にあります。今後は学校、児童会館、大学、地域団体、子育て支援拠点をつなぎ、「若者が子育てを学び、地域がそれを支える」循環型の仕組みに拡張することが、人口減少対策として有効です。